

アスパラガス栽培管理（立茎後～）

令和2年5月
アグリ技研（株）

1. 生育状況（春芽収穫期～立茎時期）について

本年は、3年前の春芽に似てやや低収気味（斑点や温暖化の要因）の産地も多かった様です。これに寄り立茎された親茎の摘芯位置の径や側枝・擬葉も細くなっている圃場が目立ちます。立茎後は早目に成樹園に成る様な管理に努めます。

2. 一般管理について

① 立茎後の施肥対策（樹の草勢強化や根域の充実）

(1) 「発根促進や草勢強化」（10a 当り）

◎草勢強化や夏芽の品質向上に、「ウルル10号」10～20kgを1月に2回程の灌水処理

◎立茎時の発根促進活性のために「アミクエ」5～10kgを1月に2～3回灌水処理

◎草勢強化に「コラーゲン・ラボ」500倍+「クドグリーン」500倍を5～7日置き葉面

(2) 「連作障害軽減・立枯性予防・品質向上」（10a 当り）

◎連作圃場や立枯れ予防に「豊作源」を月に2～3袋施肥

◎発根・立枯性予防に「亜リン酸有機8号」や「カウボン」を月に2袋施肥

◎草勢維持・品質向上に「PKゴー」2000倍の葉面散布

(3) 追肥（夏芽は肥料を上手に使って増収）

5月に入り夏芽の増加時期になったら追肥を行う。

「有機質肥料」

圃場の土壌条件	肥料名	10a 当たり使用量
バランス良好な圃場は	鮮彩美人 066	全収穫量 100kg で 1 回追肥に 1 袋
リン・カリの過剰な圃場は	センサイオール 1	全収穫量 100kg で 1 回追肥に 1 袋
省力的栽培の圃場は	鮮彩ロング	60 日に 6 袋 (3 袋を 2 回に分散施肥)

◎追肥は月に1回は通路にも施肥します。

◎鮮菜ロングは30日に3袋でも可能です。

◎PKゴー2000倍を月に3回の葉面散布(草勢コントロール・バランス維持)

②水管理（夏場は水管理で増収・品質向上は決まる）

立茎後は乾燥する為に、午前・午後にかけて数回に分けて水分を与えて吸収根の活性や光合成や茎葉維持を図る、又水分で品質面（ワレ・サケ茎）の影響もある為に、土壌水分や施設内の湿度を高める。

特に梅雨明け後の、乾燥時は毎日の少量多回数で行って地温上昇抑制や湿度保持にも努める。

③温度管理（とにかく暑いので下温対策で増収と品質向上）

梅雨明け前は、夜温 15℃確保と急激な日中 35℃以上にならない様に適正温度管理に努める。その後は、昼間と夜間の下温対策を行う。

対策としては、遮光資材の散布・妻面のビニール除去・サイド面の換気・循環扇の設置などを行って茎葉維持する。

「温度・湿度・株元冷却処理の関連性」

◎梅雨明け後（高温乾燥時期）の地温抑制や施設内湿度の調整は夏芽の収量や品質には大きく影響しますので下温対策と水管理の関連性を考慮して十分な管理に努めます。

「生長点・株元の冷却や湿度を維持することで夏場の品質や収量向上になります。」

④病虫害抑制（ポイントは予防散布で 10 日置きに抑制）

斑点・褐斑病、茎枯病・・・「立茎後 60 日の予防防除で決まる」

気温上昇と多湿で発生も多くなりますので、立茎時と梅雨時に特に防除徹底

防除前には、事前に灌水を行う、散布時間帯はなるべく涼しい時で散布後は茎葉のスムーズに乾く様に努めましょう。

薬剤名	対象	倍数
コサイド 3000	斑点性・茎枯れ	2000 倍（スカッシュ混用）
ロブラール水和剤	茎枯れ・灰色カビ	2000 倍
ダントツ水溶剤	アザミウマ類	2000～4000 倍
アドマイヤー顆粒水和剤	アザミウマ類	5000 倍
コロマイト乳剤	ダニ	1000 倍
コテツフロアブル	ダニ・ヨトウ類	2000 倍

⑤茎葉整理（茎葉整理は大きく収量品質に影響）

摘芯作業は、擬葉の完全展開後の晴天日に 110～120cm 前後に鋏等で斜めに摘芯します。

下枝は地上部から 60cm 程、摘枝・葉は垂れて日陰になる枝や葉のみ先端や通路面の整理として余りに極端な整理は、収量や品質低下となります。

整理作業の遅れは収量低下や品質低下になりますので、摘芯後には出来るだけ早く茎葉の整理を済ませます、出来れば 6 月下旬までには仕上げましょう。

《追加立茎の場合》

部分的に立茎数を増やす場合には、除々に増やす方法や 8 月中旬にかけて増やす。

1 株あたりはで 3～5 本（Lクラス茎 1cm）m あたりは 12～15 本とします。